

ライブラリー Library Mate

広報部通信 A

図書館をPRするための活動を行う「Library Mate」は、今年で2年目の活動となります。今回は「私のおすすめ本」をテーマにして、メンバーが自由に本の紹介をします。

『本好きの下剋上』

司書になるためには手段を選んではいけません』

香月美夜 (TO ブックス)

本が好きで大学図書館へ就職がきまった主人公の麗乃。しかし彼女は大学卒業後に死んでしまう。彼女は兵士の娘(マイン)に転生し、識字率の低い平民が住む町で暮らすことになる。本のない世界では生きていけない彼女が起こす行動とは…？ 500万字という稀に見る大長編である中で、読み手を飽きさせないストーリー構成と個性的なキャラクターたちが魅力的。本編はwebでも無料公開されているため、「ちょっと気になるな」という方は検索をおすすめする。書籍ではさらに細かい描写や主人公以外の目線で語られるSSを読むことが出来るため、気になる方は是非手に取ってほしい。

子ども学科2年 沖田葉



「この本は自ら勉強し変身を望む者が読むべきものであり、その原理と実践の書だ。「自分を真の姿にしてくれるベストな勉強法などない」と千葉は言う。勉強は終わることのないものだからだ。だからこそ、勉強を意識的に中断し、それを「仮に」成立させる必要がある。」

完璧を求めてはいけない。むしろズレしてしまうことこそリアリティなのだ。あなたはズレて、キモくなることを認められるだろうか？

表現文化学科3年 赤間竜也

千葉雅也 (文藝春秋)



『勉強の哲学 来たるべきバカのために』

『アニメを仕事に！ トリガー流アニメ制作進行読本』

舛本和也 (星海社新書)

キルラキル「リトルウィッチアカデミア」で有名なアニメスタジオ「TRIGGER」を例に現場を疑似体験できる一冊。「アニメを見る人」がたくさんいても「アニメの作り方を知っている人」は少ないです。この本ではアニメを制作するのに欠かせない制作進行という役職の役割を説明しつつ、アニメが制作されるまでの過程を紹介しています。アニメ業界は「きつい業界」「儲からない業界」「労働時間が長い」「賃金が安い」のブラックなイメージ。それらのイメージを吹き飛ばす「楽しさ」をこの本で知ることができます。

表現文化学科3年 H.I



『がまんしなくていい』

鎌田實 (集英社文庫)

「がまんしなくていい」皆さんは今どうでしょうか？ 学生生活での勉強やアルバイト、サークル、友だち関係等。色々な所で我慢していることはありませんか？ ストレスが溜まるとは病気になるってしまいます。そうならないためにはどうするか。そのための姿勢がこの一冊に詰まっています！ 副交感神経を働かせること、笑うことで免疫力を調整できること、スキップとして肌と肌が触れること、など読む人一人ひとりに寄り添ってくれる文章と共に楽しくいきましょう！

子ども学科2年 文屋みのる



今年も図書館フェスタをやります！

図書館フェスタ

1日目はライブラリーメイトによる本や作家の特集展示 & 図書館をぐるっと一周できるクイズラリー(景品あり!)。そして人間心理学科の学生による心理コーナーも設置いたします！

2日目は懐かし絵本の読み聞かせ。そして本を読む人にはいくつあっても足りない「葉作り」を開催いたします！ぜひぜひ足を運んで図書館の新しい魅力を発見しましょう♪

特設コーナー 怪談特集

7月から8月にかけて怪談特集を行います！ 絵本から小説まで、ライブラリーメイトが厳選した怖い話を集めました！ 幽霊、妖怪、怪奇現象 etc... 時代も平安から現代まで幅広く揃えていますのでお気に入りの一冊が見つかるはずです！ 夏にぴったりの本を読んで涼しくなりませんか？